

じゅしゅう

第58号
(通算398号)

発行元
浄土真宗本願寺派
吉富山 浄覚寺
大阪市平野区
長吉長原3-1-10
06-6790-8350

浄覚寺ヨガ教室

- ・2月21日(水) 10時~11時半
- ・参加費500円
- ・浄覚寺本堂にて

☆ヨガマットの貸し出しもあります。お友だちを誘い合って、ご参加ください。

元旦会 厳修

令和六年能登半島地震により被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

このたびの地震によりお亡くなりになった皆さま、さらにはご家族の皆さまへ、心から哀悼の意を表します。

また、余震が続く中、避難生活をおこなわれている方、不安の中におられる方の心情を察し申し上げますとともに、一刻も早く平穏な日々をお過ごしになれますようお願いいたします。

令和六年一月一日、新しい年を迎え、新年のご挨拶とともに、元旦会のお勤めをさせていただきます。ご法話の講師には浪速区から寺西覚水先生をお迎えしました。ご讃題には浄土真宗で一番大事な聖典、親鸞聖人が書き残してくださいました『ご本典』の総序より、「ああ、弘誓の強縁、多生にも値ひがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし。たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ。もしまたこのたび疑網に覆蔽せられれば、かへつてまた曠劫を経歴せん。誠なるかな、摂取不捨の真言、超世希有の正法聞思して遅慮することなかれ。」

の一節でした。

私たちが仏法に出遇うということはとても難しいことなものです。覚えてはいないでしょうが、私が生まれかわり、死にかわりしている中で、今までも阿弥陀さまのご催促があったことでしょうか。それでも、そんなものは必要ないと自分のこととはしてこなかった。それが、ようやくこのたび仏縁に気づくことができたのです。「たまたま行信を獲ば、遠く宿縁を慶べ」とのこと、有難いことです。また、お釈迦さまが仰るには、私たちが仏法に出遇わせていただくきっかけは三つのものを失ったとき。

一つには身、二つには命、三つには財。身とはこの身が病気になるたときのこと。命とは私のいのちではなく、大切な人を失ったとき。財とは財産のこと。それらを失ったとき、いったい私は何のために生きているのか。いのちが終わればどうなっていくのか。それを仏法に求めるのです。

同じお聴聞であつても、自分のことと聞かせていただくことで初めて仏さまの願いに気づくことができます。今までも、そしてこれからも、阿弥陀さまは私に寄り添ってくださってさつていたのです。



ご法話の様子です



ああ、この大なる本願は、いくたび生を重ねてもあえるものではなく、まことの信心はどれだけ時を経ても得ることはできない。思いがけずこの真実の行と真実の信を得たなら、遠く過去からの因縁をよろこべ。もしまた、このたび疑いの網におおわれたなら、もとのように果てしなく長い間迷い続けなければならぬであろう。如来の本願のなんとまことであることか。摂め取ってお捨てにならないという真実の仰せである。世に起えてたくいまれな正しい法である。この本願のいわれを聞いて、疑いためらつてはならない。



御文章に聞く(第51回)

参考文献：『御文章 ひらがな版を読む』 天岸淨圓著 本願寺出版社

今回も御文章(蓮如上人からのお手紙)を味わっていききたいと思います。前回は阿弥陀さまの本願によって人生を大切に生きてゆく、そのような価値観に根ざす生き方を「後生の一大事」だといいただきました。

「一大事」とは、人生の中で最も大切なものということ。いわばその

八万の法蔵章(五帖第二通)

それ、八万の法蔵をしようとも・後世をしらざる人を愚者とす、たとい一文不知の尼入道なりというとも・後世をしると智者とすといえり、しかれば当流のこころは・あながちにもろもろの聖教をよみ、ものをしりたりというとも・一念の信心のいわれをしらざる人は・いたずらごとなりとするべし、

このような現代社会にあつて、古めかしい表現ではありませんが、今一度自らの「一大事」、自分が一番大事にしたいものはならないものが何か、そして人類全体にとって「一大事」とすべきものは何かを真剣に考えなければならぬ時代になっているように思います。

そのような意識が回復しないと、全てのいのちの真のあり方を問う世界は、永久に閉ざされてしまうのではないのでしょうか。

人の根源的価値観を表す言葉といえるでしょう。

現代の私たちは何を自らの根本的な価値としていっているのでしょうか。「豊かな経済力」「便利な生活」「自己の尊厳」…、はつきりといえ、お金と便利さと強烈な自己中心主義、これらが「一大事」となっているのではないのでしょうか。

仏教語辞典



王舎城の東の城外にある靈鷲山。阿彌陀さまが説法をした聖地。日本が最も多くの仏教徒が参拝する。

王舎城

仏教の聖地の一つ。ラジギルとも呼ばれている。お釈迦さまが最も長く滞在し、説法した地。法華経や無量寿経など、この地が舞台となっているお経も多い。かつてマガダ国という王国の首都であったが、国王のビンピサーラ王のサポートや、弟子の中でも長老の舍利弗との出会いがあり、このことが仏教を広める基盤となった。

『気になる仏教語辞典』
著・麻田弘潤 誠文堂新光社
仏教にまつわる用語をイラストとわかりやすい言葉で読み解かれています。ぜひお買い求めください。

編集後記

今月も「じゅこう」をお届けいたします。一月一日の地震、二日の飛行機事故。今年ほどんな年になつてしまふのか、不安とともに一年が始まりました。

そんな中で気になったニュースがありました。一月八日、田中角栄元総理の自宅が全焼する火災がありました。お線香をあげて建物から出たこの報道があり、色々な検証が行われておりました。宗旨によって作法は違いますが、お線香は寝かせて供えるのが良いと思えます。立てていると倒れるます。最初から寝かせておいたらいいのです。また、それととも大切なのは香炉の掃除です。灰をふるいにかけるだけでもいいと思えます。そして、お参りした後は、蝋燭と合わせて必ず消火の確認をしてから、その場を離れるようにしてください。よろしくお願ひします。(釋法道)

行事案内

日時・二月二十五日(日) 十四時より
行事・第四回浄覚寺 仏教文化講演会
場所・長原浄覚寺
講師・桂吉坊師 / 当山住職
テーマ・法話と落語、トークイベント

参加費無料です

3月

三月二十日(祝) 十四時より

春季彼岸会 法話 加藤眞悟先生

(なお、当日のお参りはお休みをさせていただきます)
落語家さんの普段の姿を存分に聞かせていただきます。落語家さんの普段の姿を存分に聞かせていただきます。

